

【神戸新聞 2021年(令和3年)2月1日付】



クロスカントリーの練習に利用している旧千種北小学校に集まった(左から)池部選手、大田選手、越嶋選手＝兵庫県千種町西河内

## 宍粟・千種高スキー部の女子3人 全国大会へ決意新た

アルペン・大田選手、クロスカントリー・越嶋、池部選手

### 「自分の実力試したい」

ボールの間を滑走するアルペン競技「回転」で2位になった3年大田美音選手(18)と、越嶋選手と池部選手は高校

野山を5分走り抜けるクロスカントリー競技の「クラシカル」と「フリー」でいずれも2位の2年越嶋選手(17)、同3位の池部黄那選手(17)。

大田選手はスキー場に近い波賀町道谷地区で生まれ育ち、波賀中でもスキー部に所属した。大会出場選手は4人と少なかったが、強豪の但馬勢を相手に一本目の滑走で3位に0.5秒差の2位につけた。本日も「攻める気持ちを忘れなかった」と失敗を恐れずに滑って2位を守り切った。

中学、高校通じて初めての全国出場に「自分の実力がどのくらいあるか試したい」と期待した。大会は出場選手が3人しかいないため全員が全国に出場できるという事情はあるが、但馬の強豪選手とのタイム差は練習の成果で昨年より数分縮まった。2年連続の全国出場に2人は「苦しい時も自分に打ち勝って、100番以内に入りたい」と目標を掲げた。

県高校総体スキー競技会がこのほど養父市の水ノ山国際スキー場などで開かれ、千種高(宍粟市)の女子部員3人が2月6日に長野県で開催する全国高校総体への出場権を獲得した。スキー場が近いとはいえ、練習環境は決して恵まれてはいない。本場で開催される大会で全国の強豪と競い合う日を楽しみにしている。(古根川淳也)